

## 第7回サルビア講座

## 健康を脅かす今話題の感染症

開催日 平成16年6月5日

講師 本学教授 小野 一 男

## 1. はじめに

近年、世界中で新たに発見された感染症（新興感染症）および再び問題となっている感染症（再興感染症）が流行し人類に脅威を与えています。わが国においても1996年の腸管出血性大腸菌O157感染症を始めとして、昨年は重症急性呼吸器症候群(SARS)が、また本年は狂牛病(BSE)や新型トリインフルエンザなどの動物由来感染症が話題となり、食品の安全性が大きな社会問題となっています。また、若者を蝕む後天性免疫不全症候群(AIDS)や陰部クラミジア症などの性感染症、老人を悩ます結核、そして病院ではメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)などによる院内感染症と、今、感染症は大きく変貌して我々の健康を脅かしています。

今、なぜSARSやBSE、新型トリインフルエンザが出現してきたのか？AIDSや結核、MRSAの実態は？そして、これら感染症の対策は？講座ではこれら感染症の実態を資料とスライドにより平易に解説し、その流行要因と対策を考えました。

## 2. 感染症の動向

世界の死因の25%が感染症によるもので、とりわけ開発途上国では45%と高く、そのうち乳児と小児の死亡原因のそれぞれ48%と63%を占めており、毎年1,300万人余の人々が何らかの感染症で亡くなっています。その感染症の第1位は呼吸器感染症、2位がエイズで、以下、下痢症、結核症、マラリアそして麻疹と続きます。わが国に限れば薬剤耐性菌感染症と輸入感染症の増加と多様化そして動物由来感染症と性感染症の増加が問題となっています。

## 3. 話題の感染症

## ・動物由来感染症

新興感染症のほとんどが動物由来と見られており、2003年春アジアを中心に8,000人以上の感染者を出した新型肺炎、重症急性呼吸器症候群(SARS)は何らかの野生動物に潜んでいるコロナウイルスの新種が原因と考えられています。また、2004年春、香港やオランダで感染者が相次ぎ、日本でもニワトリやカラスの保菌が話題となった新型インフルエンザは、野鳥から家禽そして家禽から人へウイルスが感染し、高い確率で死に至り、人から人への直接感染も確認されており大流行が懸念されています。

## ・性感染症

人類最大の感染症として世界中の人々の健康を蝕んでおり、AIDSは世界の累積感染者数6,000万人、累積死亡者数2,500万人、新規の感染者と死亡者が毎年550万人と300万人を数えており、先進国で患者と死亡者が増え続けているのは日本だけです。この背景には自覚症状が少ないクラミジア感染症やヘルペス感染症の若者を中心とした流行があり、不妊や子宮頸部癌を促進しています。

#### 4. 感染症対策

近年の感染症の変遷に対する法的な対策として、従来の伝染病予防法を改正して平成11年4月1日に「感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律」（感染症新法）が施行され、さらにSARSの流行を踏まえて感染症新法の一部が改正されて平成15年11月5日から改正法が施行されています。

感染症の対策としては、法的対策はもとより科学的な情報を踏まえた個人の自覚と自己責任に帰するところ大きいと考えられます。